



# 果樹苗木の植え付け方

野菜と違って果樹は一度植え付けると、少なくとも10年以上も同じ場所で栽培を続けます。

栽培中に樹を植え替えたり根を掘り起こすのは難しいです。

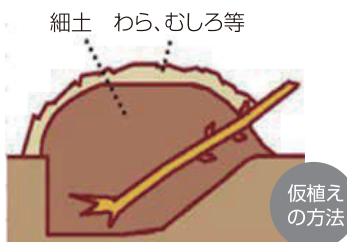
成木になる姿を想像しながら定植をしましょう。

## 苗木の準備をしよう

● 植え付けようとしている苗木の根を乾燥させないようにしましょう。すぐに植えない場合は、排水が良い場所に仮植えしておきます。

● 果樹苗木の植え付け時期は、落葉果樹（栗、山椒等）が3月上旬から4月上旬、常緑果樹（びわ、ぶどう等）が3月下旬から4月中旬までが一般的です。

● 多くの果樹では一品種だけ植えても果実がならない、又はなりにくい性質があります。2つ以上の品種を受粉用に混ぜて植えましょう。



日当たりが良く、保水性、通気性の良い圃場を選びましょう。深さ20cm程度の溝を掘り、水に浸して十分吸水させた苗木を一本ずつ斜めに並べ、細土をまんべんなくかけます。その上からわらやむしろ等をかけて保水と防水をします。

※冬季の冷え込み、乾燥が厳しい地域では凍害（霜が降りる等）の心配のない11月～3月中旬頃までは仮植をしておきましょう。

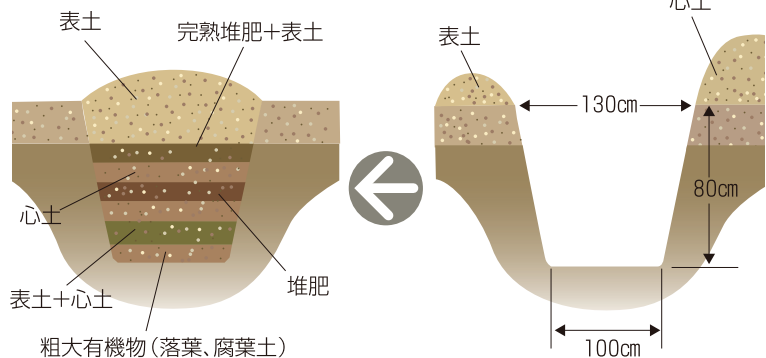
## 果樹による受粉の違い

- 【一本で実がつく果樹】
- ▼ びわ、柚、桃、ぶどう、みかん
- 【受粉樹が必要な果樹】
- ▼ 栗、梨、りんご、梅、さくらんぼ、すもも、あんず、キウイフルーツなど

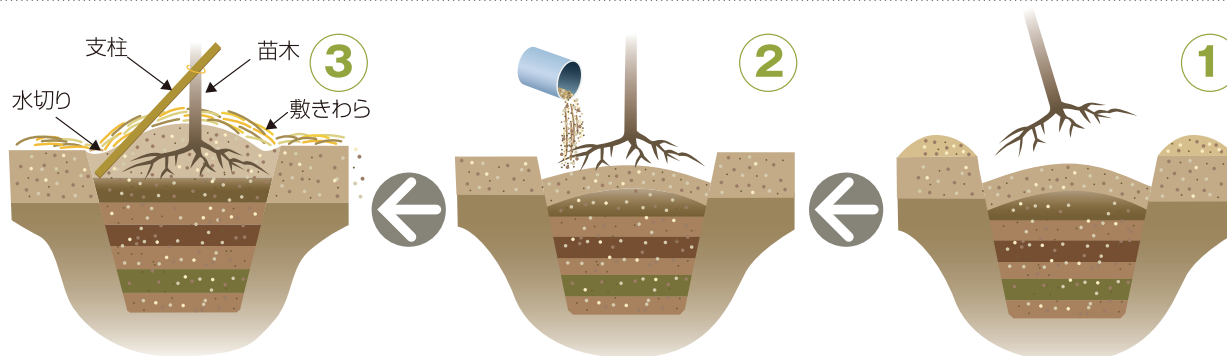
## 苗木の植え穴の準備

● 苗木の植え付け前に、できるだけ大きな穴を掘り、下層部には落葉や腐葉土、その上には掘った土に堆肥（20kg）や石灰（5kg）、よつりん（5kg）を混ぜて埋め戻しておきます。植え穴は、植え付けの1ヶ月前に準備して、埋め戻した土に投入した資材を馴染ませておきます。

※ 植え穴が右図より小さい場合は、肥料も少なく施用してください。又、直前に有機物、化成肥料を施用すると根を痛めることがあるので控えます。



## 苗木の植え付け方法



埋め戻した植え穴を苗木の根が入る大きさに浅く掘ります。苗木を植えたときに根の周囲が下がるように、穴の底を丘状に中央を高くしておきます。



生育中に樹が沈んだり土が流れ込み、接ぎ木部が土に埋まると樹勢が弱まるので、接ぎ木部が土に埋まらないように浅く植え付けます。苗木を植え穴に置き、根を広げ、土を入れて根と土に隙間がないように、軽く踏み固めます。

軽く水をあげて根と土を馴染ませ、敷きわらや粉がらなどで被覆させます。植えた苗木の側に支柱を立てて、風で根が動かないように固定します。植え付け後はたっぷり水を与えましょう。その後はひどく乾燥しているときだけかん水しましょう